

第4章 資料編

作成にあたって

<アンケート調査の概要>

対象	平成 27～平成 29 年度に、介護助手モデル事業に参加した三重県内の介護老人保健施設・介護老人福祉施設 計34施設
調査手法	郵送配布・郵送回収
調査期間	平成 31 年 1～2 月
回収率	有効回収数 25 施設 有効回収率 73.5 %
回答者の概要	・介護老人保健施設 22 施設、介護老人福祉施設 3 施設 ・介護職員数(正職員) 50 人以上 4 施設、30～49 人 13 施設、29 人以下 5 施設、無回答 3 施設 ・介護職員数(パート・非常勤) 30 人以上 2 施設、10～29 人 9 施設、9 人以下 11 施設、無回答 3 施設
設問	・施設の概要、介護助手の属性 ・導入目的と受入体制づくり、業務の切り出しと導入イメージの設定 ・募集、説明会・マッチング面談、雇用・就労、振り返り・改善

<ヒアリング調査の概要>

対象	平成 27～平成 30 年度に、介護助手モデル事業に参加した三重県内の介護老人保健施設・介護老人福祉施設・グループホーム
調査期間	平成 30 年 9 月～31 年 2 月
実施状況	訪問 13 施設・団体(三重県老人保健施設協会、三重県老人福祉施設協会、介護老人保健施設 4 施設、介護老人福祉施設 5 施設、グループホーム 2 施設) 電話 2 施設(グループホーム 2 施設)
質問項目	・施設の概要、介護助手の属性 ・導入目的、受入体制 ・業務の切り出し、募集、説明会・マッチング面談、雇用・就労 ・導入の効果、導入上の留意点や工夫、今後の意向

<参考文献>

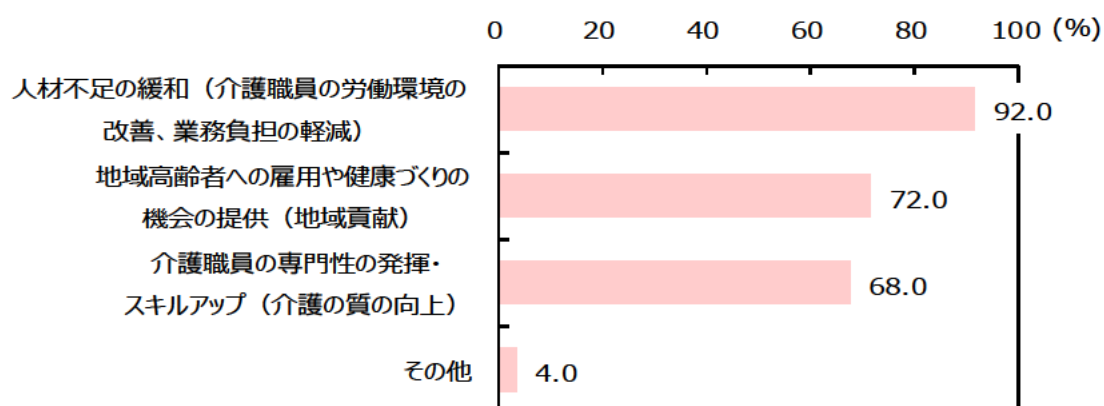
・全国老人保健施設協会作成資料

A. 導入目的の明確化と受入体制づくり

A-1 主な目的

【アンケート】

・介護助手導入の主な目的



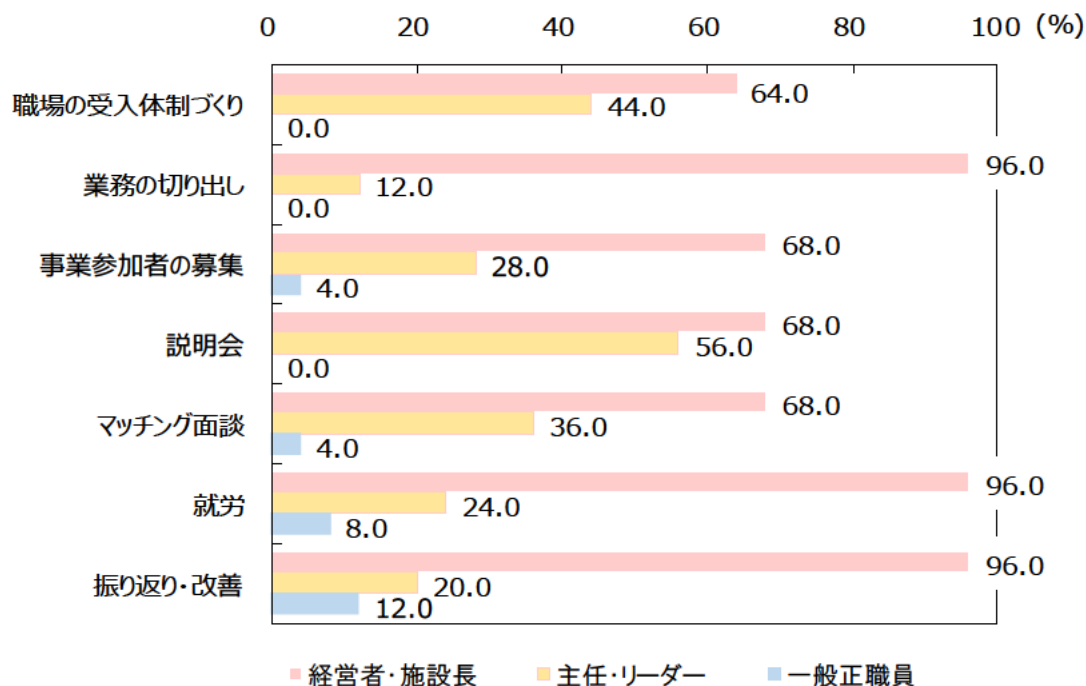
【事例】

- 事業開始当初の目的は「介護職員の専門性の向上、丁寧な介護の実施」であったが、現在は「介護職の負担軽減(有給消化)」がメインになっている。
- 導入の目的は人材不足と介護職の負担軽減であった。人が少ない地域でもあるので、地域で助け合おうという意識があった。
- 施設の人員という意味では、充足はしていたが、介護職が本来の業務に専念するには人員不足といった状態であった。また、別の目的として、社会福祉法人として地域貢献をする役割を果たすためもある。
- 事業参加の主な目的は、介護人材不足の対応、クオリティの高い介護の実現、地域との交流の促進である。

A-2 役割分担

【アンケート】

・受け入れの準備の中心的担当者



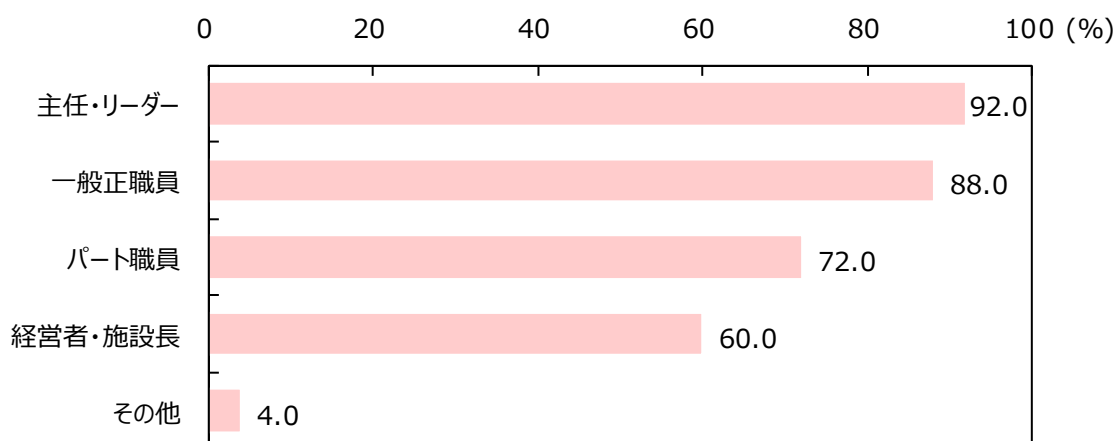
【事例】

- 主に介護長とベテラン介護職員が業務ごとに洗い出しを行い、介護助手に任せる業務を切り出した。OJTは、初めの1か月ほどは介護長らがマンツーマンで行い、その後徐々に現場の中堅職員にバトンタッチしていく方法をとっている。
- OJTの担当は主に、パートの介護職員に担ってもらった。そのため、正社員には教育等に係る大きな負担はなかったように思われる。
- 切り出し作業は施設長が、各部署の主任にお願いして、曜日・時間別の中心業務、周辺業務を一覧にしてもらった。
- 切り出しは、グループリーダー(5人)とユニットリーダー(5人)を中心に(10室で1ユニット、2ユニット1つのグループ)が、それぞれのグループごとに行った。

A-3 職場内での事前説明

【アンケート】

・職場での事前説明の対象



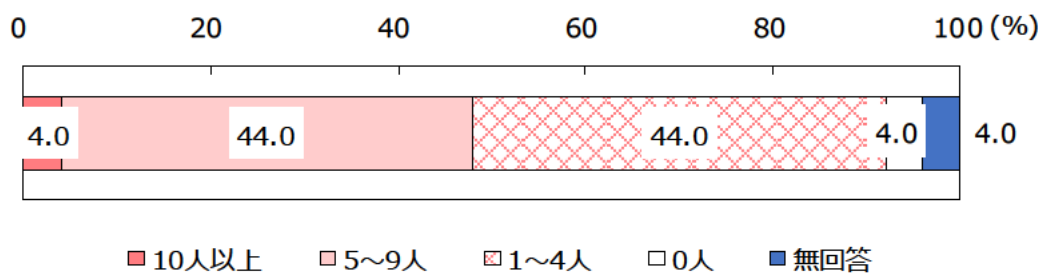
【事例】

- はじめのうちは教育・指導に係る負担を懸念する声もあったが、「みんなそうだった」と考え納得してもらった。
- 募集前に、職員向けの事前説明会を実施した。その場で、切り出しに関する意見などを募った。また、服薬やとろみなど想定できるリスクは事前に職員内で共有し、全体で注意できるようにした。
- 当初、職員に介護職員ではないことを、口酸っぱく話した。
- コアメンバーで導入を進めて、リーダークラスには説明していたが、職場全員に説明していなかったため、導入当初は職員が戸惑うところがあった。職員に導入の意義を説明し、理解してもらってからは、職員もうまく対応できている。
- まず、5名のグループリーダーとすりあわせて、ユニットリーダーに説明をした。
- ユニット内のどの職員に聞いても同じような回答が得られるように現場に依頼した。
- 研修として時間を作り、介護サポーター導入の目的や方法について、職員に周知した。

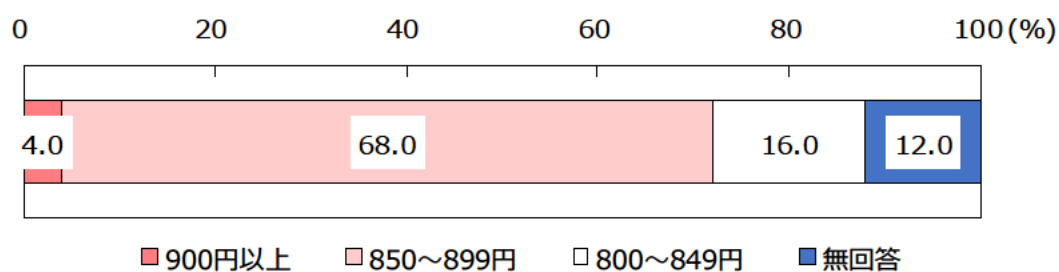
A-4 介護助手の雇用

【アンケート】

・現在の雇用人数

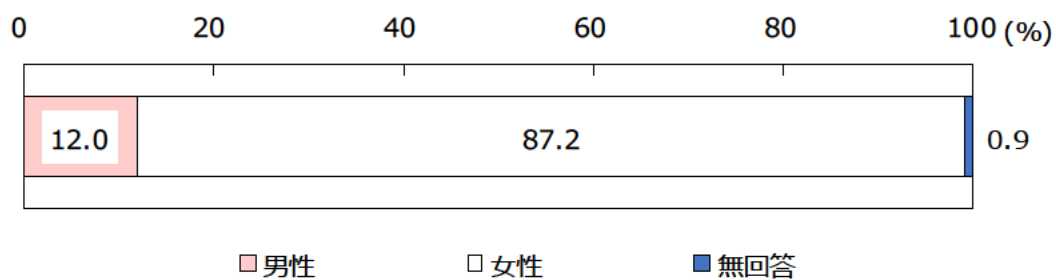


・現在の平均時給

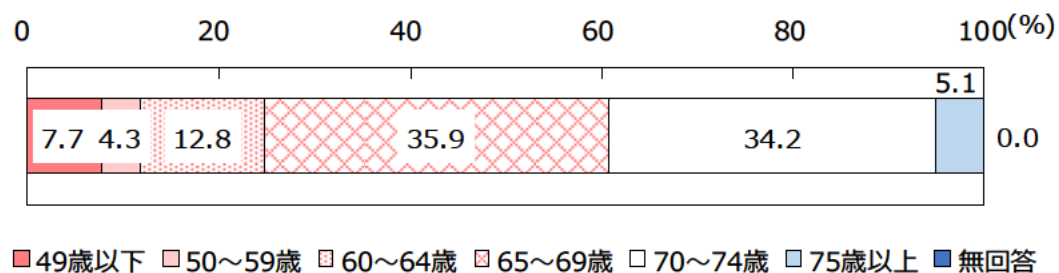


【アンケート】介護助手の属性(介護助手 117 人対象)

・性別

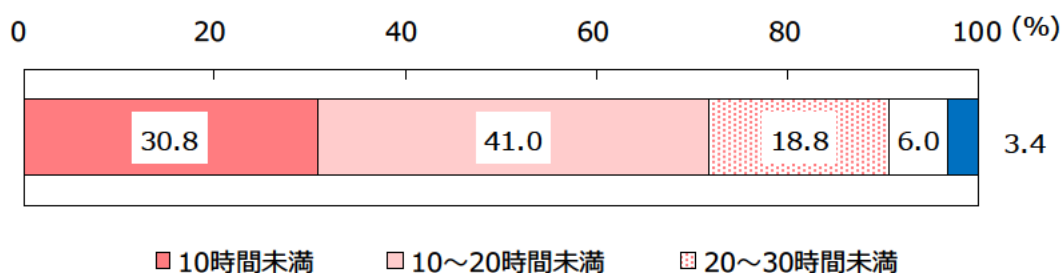


・年代(介護助手 117 人対象)

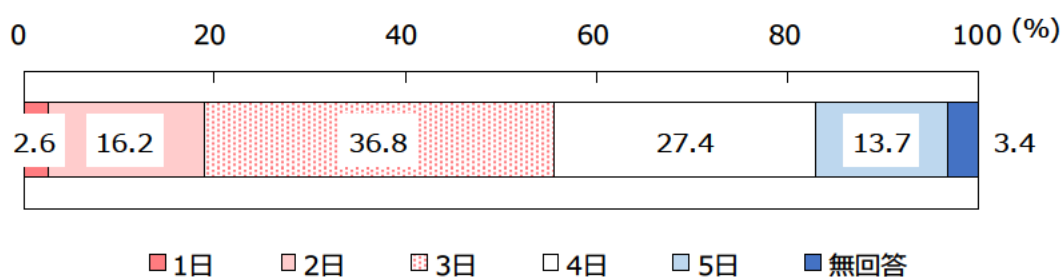


【アンケート】介護助手の勤務状況(介護助手 117 人対象)

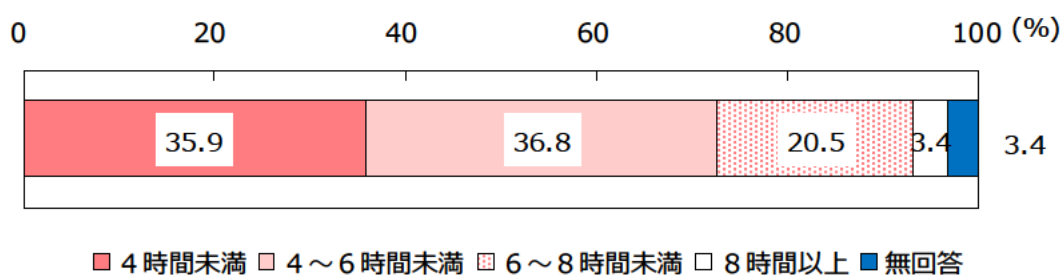
・1週間の勤務時間(休憩込み、介護助手 117 人対象)



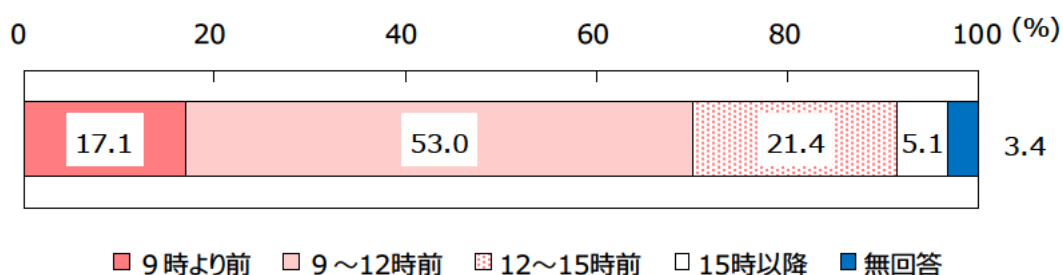
・1週間の勤務日数(介護助手 117 人対象)



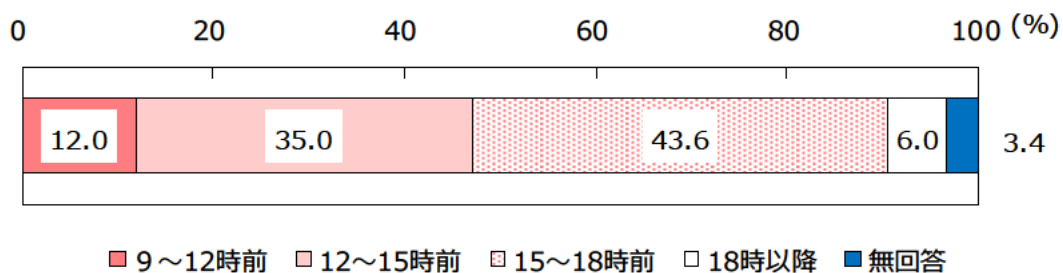
・1日の勤務時間(介護助手 117 人対象)



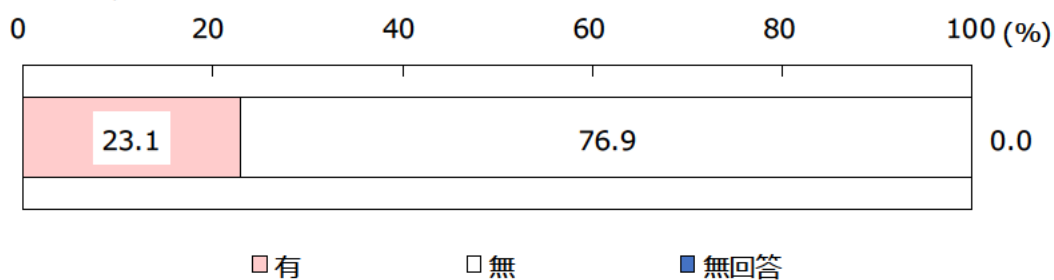
・業務開始時間(介護助手 117 人対象)



・業務終了時間(介護助手 117 人対象)



・資格の有無(介護助手 117 人対象)



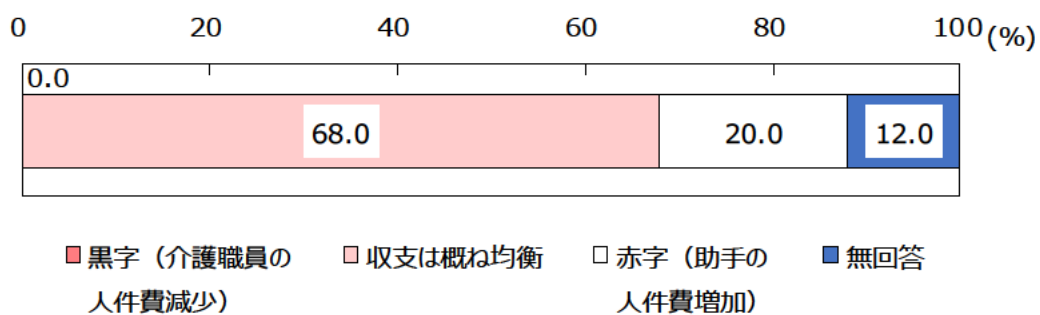
資格有の内容

・介護福祉士、介護初任者研修、ホームヘルパー2級

A-5 収支

【アンケート】

・介護助手導入おける収支

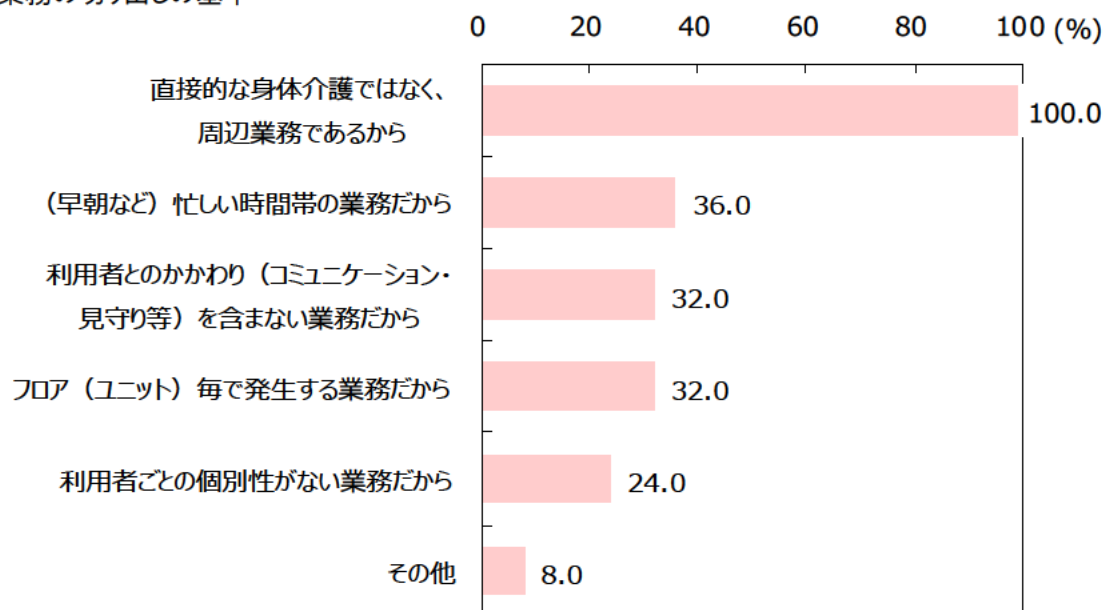


B. 業務の切り出しと導入イメージの設定

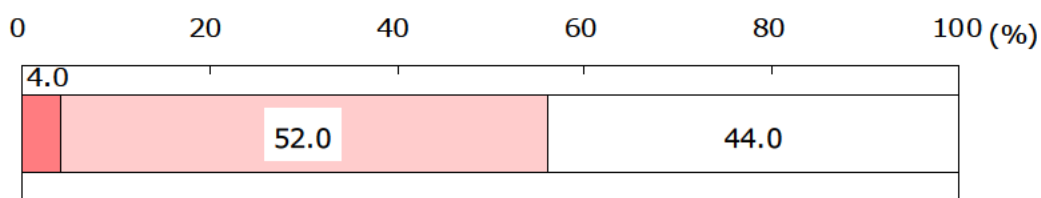
B-1 業務の切り出し

【アンケート】

・業務の切り出しの基準



・介護助手業務のレベル分け



- 明確に分けている (介護助手ごとにレベルを分けている)
- ある程度分けているが、様々な業務を柔軟に行っている
- 介護助手ごとにレベル分けはしていない

・介護助手が行っている業務

(全項目)

業務内容	割合 (%)
ゴミ出し	48.0
植栽水やり	12.0
掃除 (フロア)	68.0
掃除 (浴室)	40.0
掃除 (トイレ)	48.0
掃除 (居室)	64.0
ベッドメイキング	76.0
食器等洗い	56.0
湯はり	8.0
フロア物品の補充	52.0
洗濯物回収・配布	56.0
洗濯	20.0
居室物品の補充	32.0

業務内容	割合 (%)
配膳・下膳	68.0
義歯洗浄	12.0
起床声掛け	0.0
ナースコールの一次対応	4.0
利用者の話し相手	60.0
レクの手伝い	32.0
整髪・ドライヤーがけ	20.0
食事介助	20.0
とろみ付け	16.0
記録補助 (食事摂取量・体温等)	0.0
車いす移動	28.0
歩行付き添い	12.0
見守り	52.0
その他	16.0

【事例】

- もともと施設内で直接処遇・間接処遇という概念があったため、切り出し作業は比較的スムーズに行うことができた。
- 業務のレベル分けなどは特にしていない。身体介護か周辺業務か程度の大まかな区分であり、各介護助手の能力に応じて柔軟に対応している。
- 食事介助は介護職員の仕事であり、嚥下機能の低下している利用者では誤嚥のリスクも考慮し、基本的に介護助手は関与しない。
- お風呂で着替えの服の交換、体を拭く、服を着るのに苦労している時にちょっとしたシャツのおろし、手を通すなどのお手伝いなど、できる範囲で実施している。職員は、その様子をしっかりとみている。
- ユニットごとに利用者の生活のリズムが異なるので、それぞれのグループで介護助手に期待する業務の内容や時間帯が変わってくる。現場が欲しているものを介護助手にはやってもらっている。ただし、業務内容は似てくる。
- 掃除、洗濯、あらいもの、シーツ交換、お風呂の準備・掃除、食事の準備(湯せん)などの業務を想定し、元気高齢者はいろいろなことに長けているので、その人に合わせて個別に業務内容を調整した。
- 切り出しで上がってきた周辺作業の中で、各介護助手の勤務時間で可能なものを割り振っていかうと考えていた。

<参考> 業務チェックリスト(業務切り出しの参考用)

分類	業務内容	備考	対利用者業務			周辺業務		
			単純作業	要注意業務	専門業務	単純作業	要注意業務	専門業務
起床	声かけ			●				
	おむつ交換				●			
	トイレ誘導			●				
	着替え				●			
	整容				●			
	義歯装着					●		
居室清掃	換気					●		
	床掃除					●		
	トイレ清掃	ポータブルトイレ、居室内トイレ				●		
	シーツ交換・ベットメイク					●		
	ゴミ捨て					●		
	物品補充					●		
食事 (おやつ)	机上清掃					●		
	おしぼり配布					●		
	自助具等配布	エプロン、自助具、足置き等					●	
	トロミ付け			●				
	食堂誘導			●				
	離床・移動介助				●			
	配茶						●	
	配薬							●
	配膳						●	
	食事介助				●			
	食事量確認						●	
	服薬確認							●
	下膳						●	
	自助具等洗浄	エプロン、自助具、コップ等					●	
	口腔ケア				●			
	義歯洗浄					●		
移動・着床介助				●				
フロア・ 共有部清掃	換気					●		
	床掃除					●		
	トイレ清掃					●		
	手すり拭き					●		
	ゴミ捨て					●		
	物品補充					●		

分類	業務内容	備考	対利用者業務			周辺業務		
			単純作業	要注意業務	専門業務	単純作業	要注意業務	専門業務
入浴	湯はり					●		
	浴室誘導					●		
	離床・移動介助				●			
	脱衣				●			
	入浴介助				●			
	薬塗布				●			
	着衣				●			
	ドライヤーかけ			●				
	水分補給			●				
	誘導			●				
	移動・着床介助				●			
	浴室清掃						●	
	物品補充						●	
洗濯	洗濯・乾燥	衣類、おしぼり、タオル、シーツ				●		
	洗濯物のたたみ					●		
	洗濯物の返却・片付け					●		
	おしぼりづくり、セット					●		
維持管理	車両清掃					●		
	植栽管理（水やり）					●		
	備品チェック	車いす、歩行器、加湿器等				●		
レクリエーション	企画						●	
	準備（準備・レイアウト変更）					●		
	誘導		●					
	離床・移動介助			●				
	進行（講師）		●					
	サポート		●					
	誘導		●					
	移動・着床介助			●				
片付け						●		
就寝介助	おむつ交換				●			
	トイレ誘導		●					
	着替え			●				
	翌日分着替え準備					●		
その他	見守り・コミュニケーション		●					

<参考> 業務リスト(一日の流れ)

通所・短期・特養 業務分担表

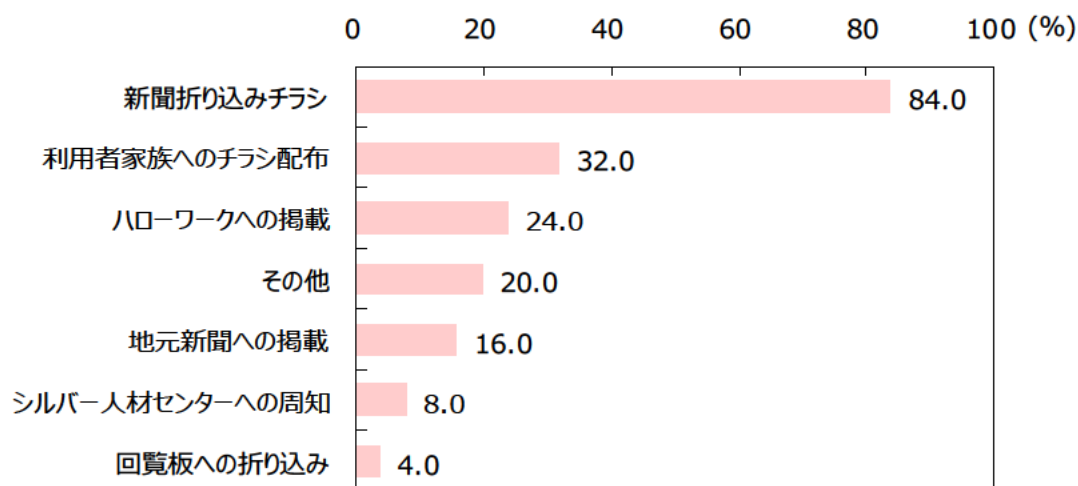
	業務 (デイ)	業務 (特養 短期)	中心業務 (介護)	周辺業務
7:30			起床 着替え	見守り エプロン配布
8:00		朝食	食事介助	配膳 下膳
8:30		排泄	排泄介助 (トイレ・おむつ)	見守り
9:00			口腔ケア	食事摂取量 記載入力
9:30			申し送り	ホール清掃 夜勤帯ゴミ出し トイレ清掃 下タオル配布 居室シーツ交換・翌日入浴者衣類準備・義歯ケース洗浄 (月・金)・口腔ケアコップ洗浄 (第4日曜日)
10:00			離床介助 (介護予防参加者)	
10:30		食事準備	処置者補助、胃瘻排泄 介護予防 (体操他) 利用者水分補給	水分補給用コップ洗浄・乾燥、机上消毒・エプロン配布・手指消毒見守り
11:00			排泄介助 (トイレ)、口腔体操	
11:30				
12:00		昼食	食事介助・口腔ケア 排泄介助 (トイレ・おむつ)・臥床介助	机上清掃 エプロン配布 配膳 下膳 見守り 食事摂取量 記載入力
12:30		排泄		ホール清掃 介護室シンク内食器洗浄・見守り
13:00		入浴	入浴 (洗身・更衣・誘導) 入浴者水分補給 胃瘻排泄 離床介助・トイレ誘導	洗濯物配布 (居室) 浴室清掃 洗濯物回収 (浴室)
13:30				
14:00				
14:30		おやつ	おやつ提供・介助 口腔ケア 胃瘻排泄	浴室清掃 ゴミ出し 見守り
15:00			臥床介助 (おむつ)、排泄介助 (おむつ)、申し送り (夜勤者)、排泄介助 (トイレ)	机上清掃 エプロン配布
15:30				
16:00			口腔体操	配膳
16:30			食事介助・口腔ケア	
17:00		夕食	排泄介助 (トイレ)	下膳
18:00			臥床介助	見守り 食事摂取量 記載入力
18:30				ホール清掃 特養介護室シンク内食器洗浄 ハイター浸け布巾すすぎ・乾燥
19:00		就眠 夜勤勤務	就寝確認	

C. 募集

C-1 多様な手法

【アンケート】

・介護助手の募集方法



【事例】

- 初年度は新聞チラシを用いて募集した。その他、福祉人材センターにも配布した。初年度以降は随時募集しており、口コミなどが多い。また、前回不採用であった方にも連絡をした。
- チラシは、新聞への折り込みと、病院・在宅介護サービスセンターに設置した。
- 募集は新聞折込チラシがメイン。車で15分程度の圏内を対象とした。地域の老人会、自治会長を回って、回覧板や掲示板への掲載をした。
- チラシは、新聞への折り込み5,000部で、配布の範囲は何かあっても自転車で帰れるぐらいの範囲にした。このほか、職員にも周りの人に呼びかけを依頼した。
- 募集は新聞折込チラシがメインだった。施設の利用者あてに送っている請求書の中にも封入して、利用者の家族等にも目に留まるようにした。また、折り込みチラシとは別のチラシを独自に作成し、普段からに協力してもらっているボランティア団体や、自治会の総会にて案内をした。
- 職員へのチラシ配布。職員が自主的にスーパーマーケットへチラシを置かせてもらった。
- 施設と交流のある団体へ案内した。
- 地元行事でチラシを配布した。

<参考> 三重県老人保健施設協会作成のチラシ

元気な高齢者が支える 超高齢化社会「モデル事業」に 参加しませんか？

生涯現役！
生涯青春！

この度、以下の老健施設で、

「モデル事業」として、60歳～75歳くらいの「介護助手」人材づくり事業
を行うことになりました。

あなたも、「介護助手さん」として老健施設で働きながら、みんなで支える
「安心できる地域社会」づくりに参加しませんか？

事業を行う老健施設：小山田老健 みえ川村老健 ちゅうぶ アルテハイム鈴鹿 鈴の丘
いこいの森 あのを やまゆりの里 カトレア

介護助手
事前説明会
詳しくは裏面へ

●「事前説明会」の
お申し込みは、
裏面の会場まで。

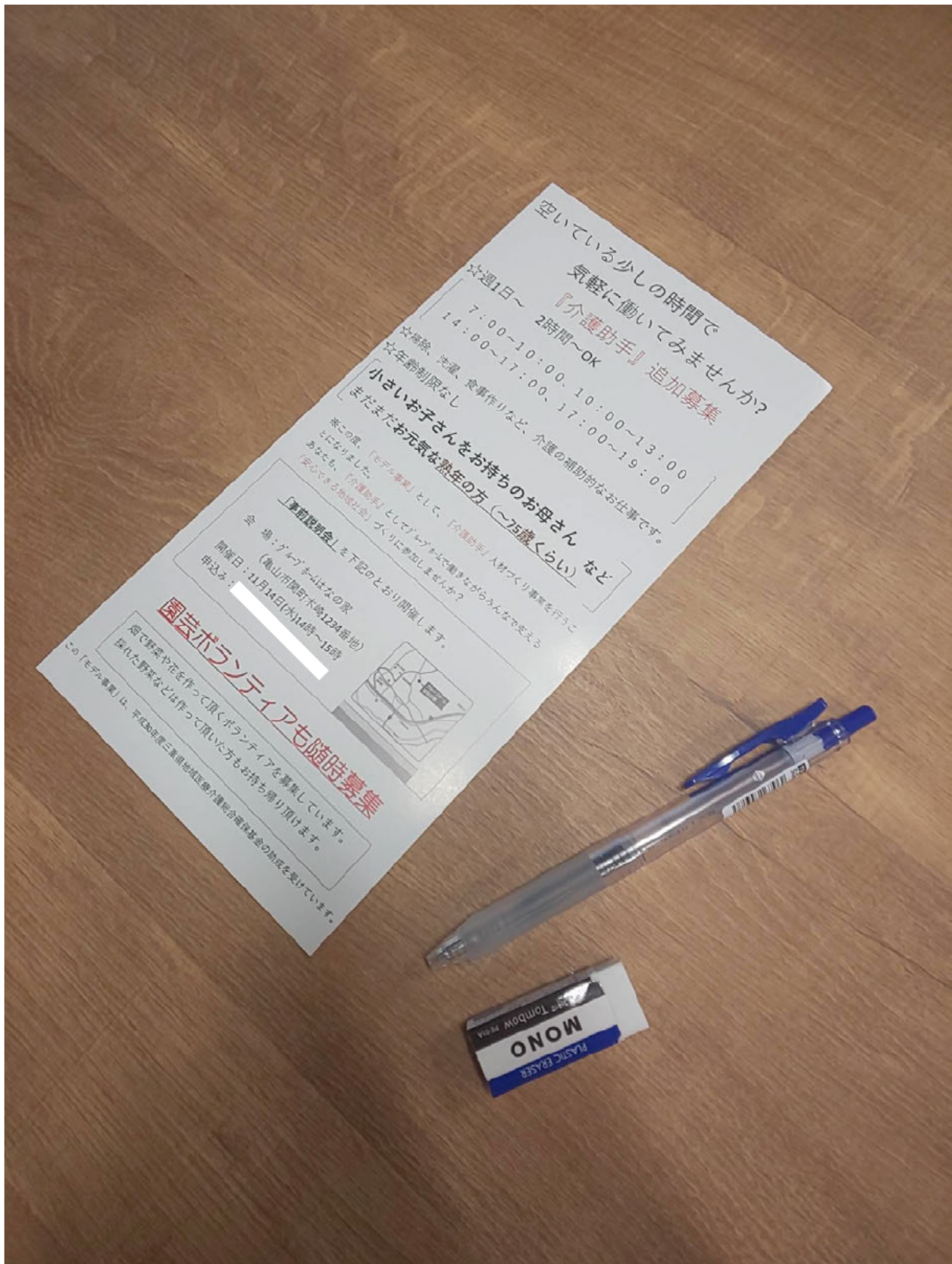
●事業に関するお問い合わせは
三重県老人保健施設協会「介護助手」づくり事務局

☎ 059-245-6677

この「モデル事業」は、消費税を財源とした「地域医療介護総合確保基金」の助成を受けています。

<参考> タウンプラス(日本郵政)を用いた募集例

チラシなどに紛れにくい長3サイズで、あらかじめ決めた範囲に全戸配布できる。



<参考> 施設作成の募集チラシの例



1日2～3時間からお仕事しませんか

自分の都合のいい時間帯に仕事がしたい、サークルや趣味の会の人と一緒に仕事ができれば、一人で行くのは大変そう
でいや、などちょっと考える前に一度施設に見学に来てくださ
い。担当職員がご案内致します。またできる限りご要望につ
いて対応させていただきます。

げんきシニア・高齢者
「介護助手」大募集！

- ・気楽に仕事ができれば
- ・健康のためにまだまだ働きたい！
- ・お友達と楽しく仕事がしたい！

あなたの経験を考慮致します。

- ・Aコース（資格経験あり 初任者研修 看護など）
見守り 話し相手 レクリエーション参加ほか
 - ・Bコース（数時間程度の研修でできる業務）
食事の配膳 車椅子移動 シーツ交換ほか
 - ・Cコース（特に条件なし）
居室清掃 施設内清掃 浴室清掃 消耗品補充
食事の下膳ほか
- ※基本的にグループで活動して頂きます。



募集要項

- ◎1日2～3時間程度(応相談)
 - ◎週2～3日 できれば土日祝働ける方
 - ◎時給 800円～
 - ◎年齢 50歳～75歳位(応相談)
 - ◎条件 明るく健康で元気な方
〒515-3421
三重県津市美杉町八知 729 番地 1
- 社会福祉法人明光会**
特別養護老人ホーム笑美の里
TEL059-272-8800
FAX059-272-1110
Email j5mszszm@za.ztv.ne.jp
HP : http://www.emi-care.info/

D. 説明会・マッチング面談

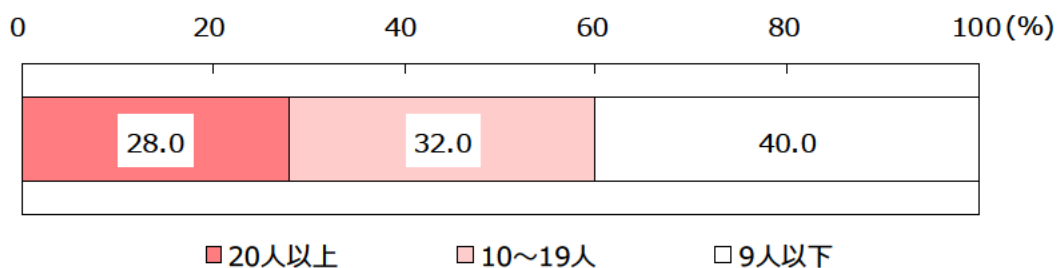
D-1 説明会

・(例)説明会の流れ

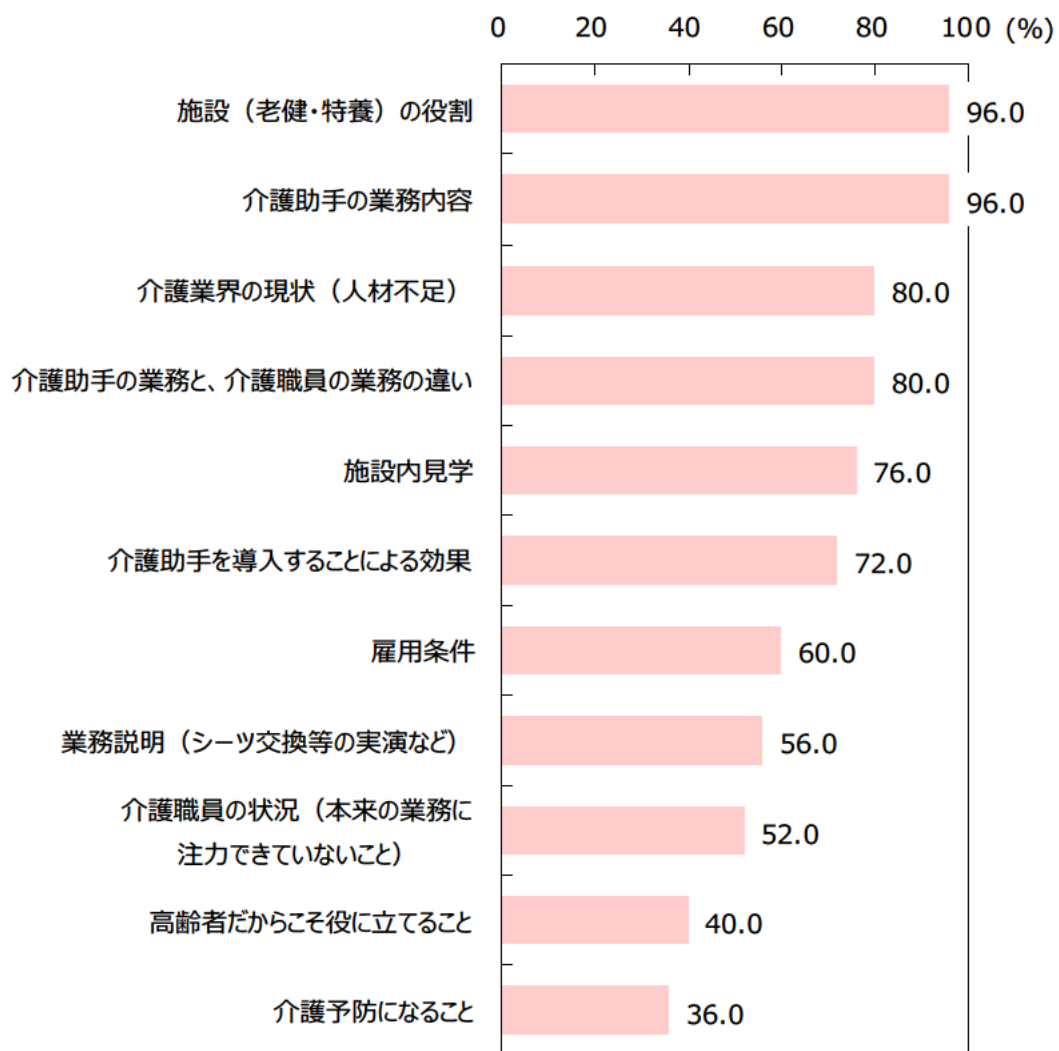


【アンケート】

・説明会参加人数



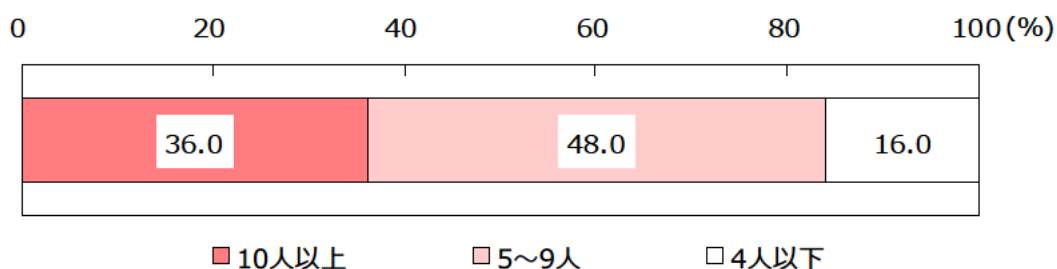
・説明会実施内容



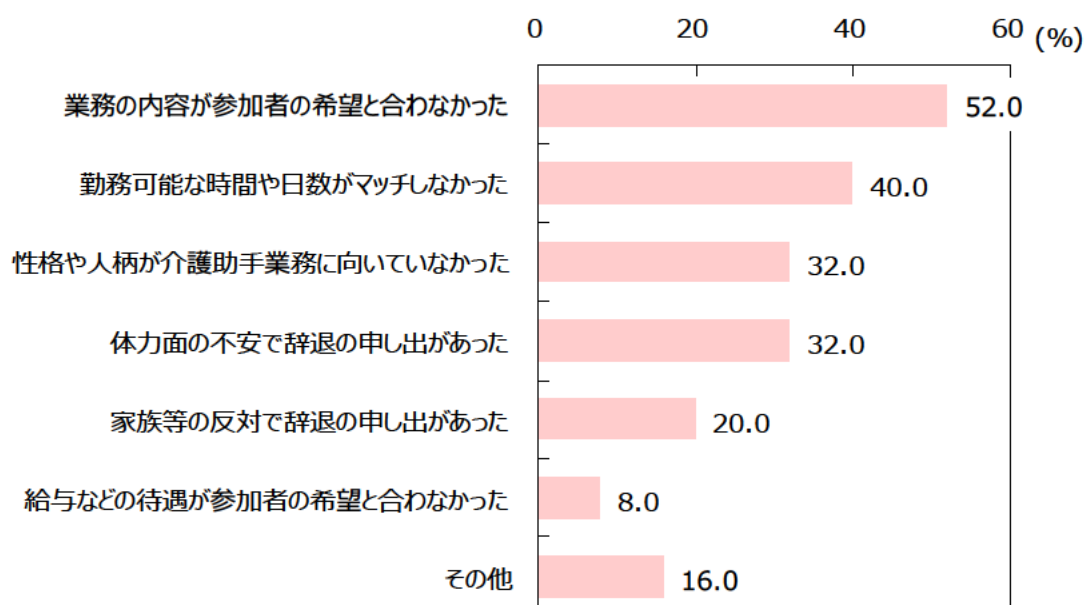
D-2 マッチング面談

【アンケート】

・マッチング面談参加人数



・マッチング成功率・至らなかった例



【事例】

- これまでは採用人数を増やすため、応募者の希望する勤務時間に施設側が合わせてきたが、今後は時間帯を絞って、それに該当する人を優先的に採用していく予定である。
- 採用の条件として、1番大事なのは人柄、次は体力面で、仕事に確実に来てくれる体力がある方である。また、若い職員とうまくやっていけるかも大切である。
- 雇用をした人は、特に日時のこだわりがない人であった。早朝の人材がほしいところではあるが、職員が1人体制の中で、介護助手を指導することは難しい。直接介助もできないので、職員が複数いる時間帯に、配属した。
- 介護業界での勤務経験のない人がすべてであったが、やってみたいという思いをくみ取って全員採用とした。勤務時間は週4回で12~16時。家事のない時間を充てているとのことである。施設の意向を中心にすると長続きしないことが予想され、本人の希望を第一にしている。

E. 雇用・就労

E-1 事前研修

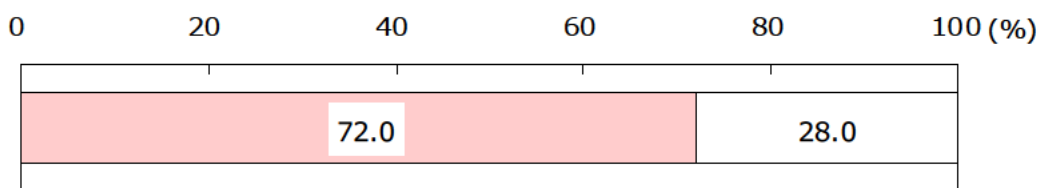
【事例】

- OJTに入る前の事前研修として、認知症の人への対応・身体拘束・感染予防・個人情報保護など、留意点について説明した。その他、ベッドメイク等についても集会的に研修を行った。
- 現場に入る前に、介護助手はケアワーカーと一緒に法人が行っている研修を受けている。研修は、介助の方法、認知症の方の理解など4日間にわたる。
- 就労開始の1週間ほど前に事前研修会を開催した。研修会では、契約の確認や生活支援員の職員との顔合わせをした。

E-2 OJT等

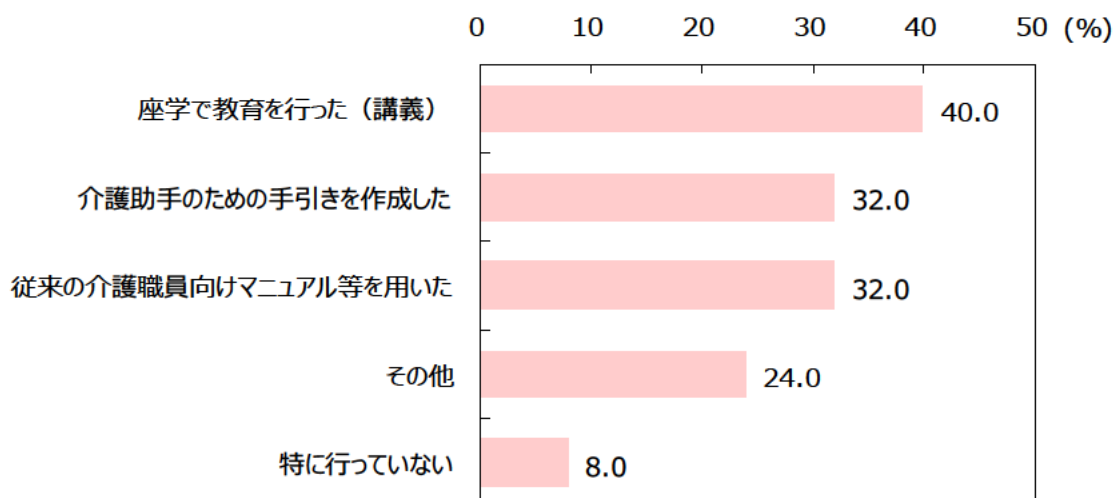
【アンケート】

・OJTの担当者



- 基本的と同じ職員が指導をした（担当が休みの際は、別の職員が指導した）
- 担当は決めずに実施した（日によって指導する職員が異なる）

・OJT以外の教育方法

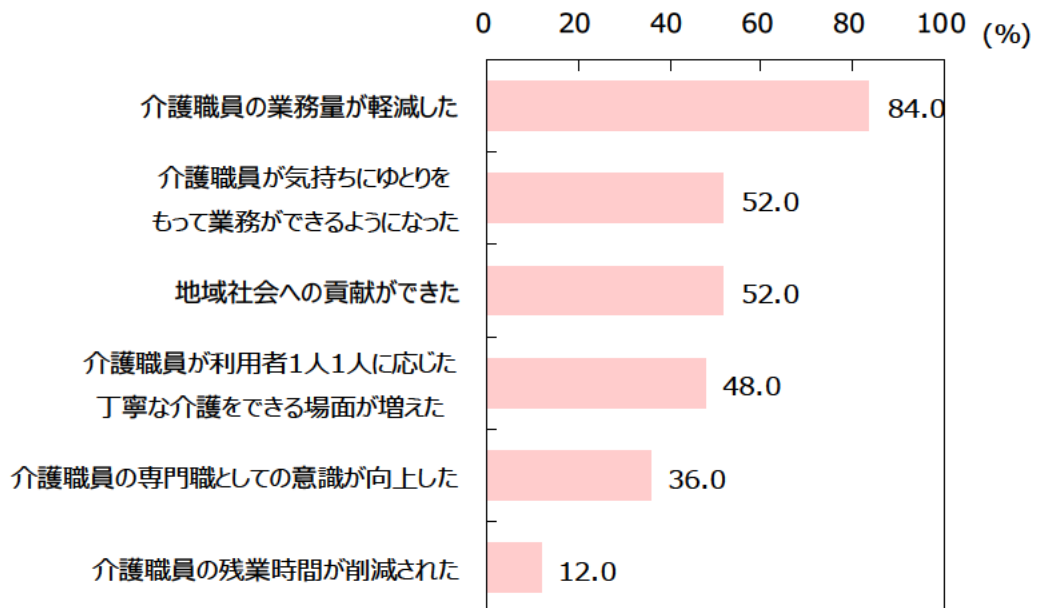


F. 振り返り・改善

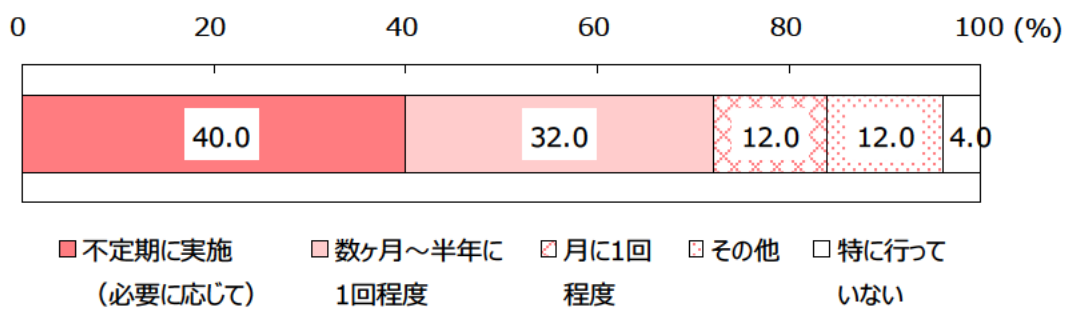
F-1 メリット・成果

【アンケート】

・導入の成果



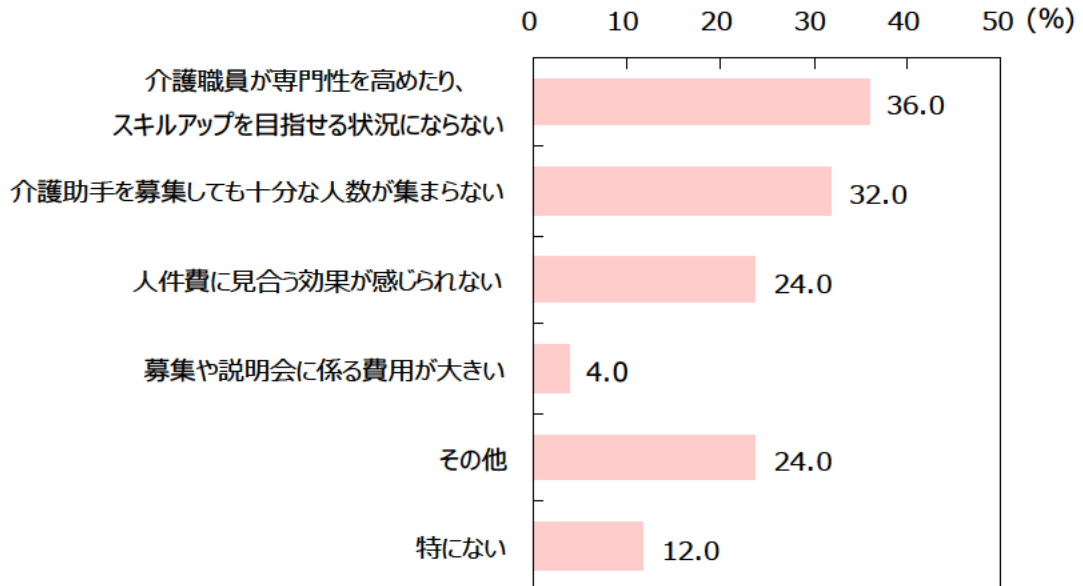
・介護助手と管理職との振り返りの機会



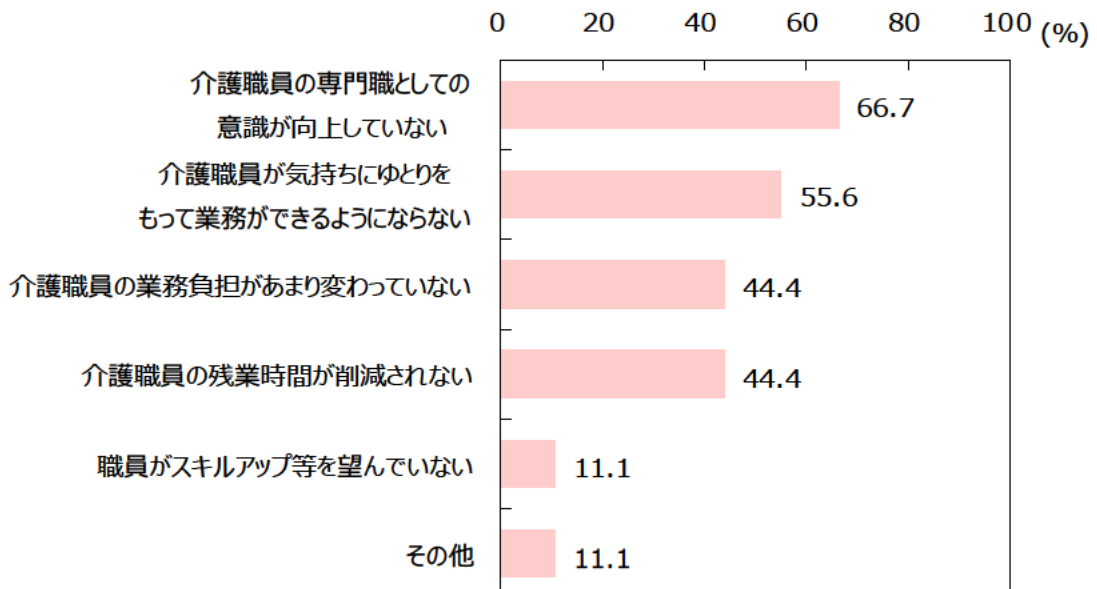
F-2 課題

【アンケート】

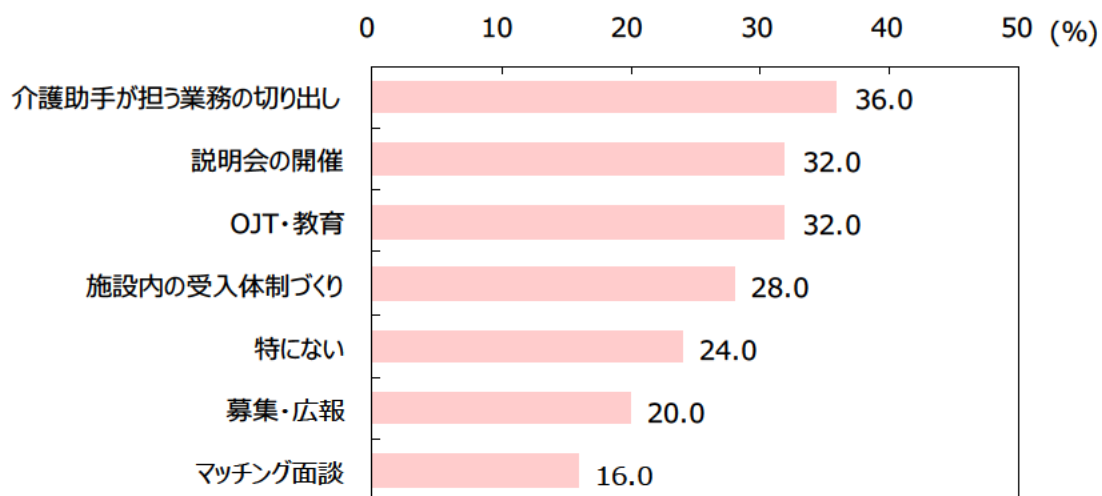
・介護助手導入に関する施設としての課題



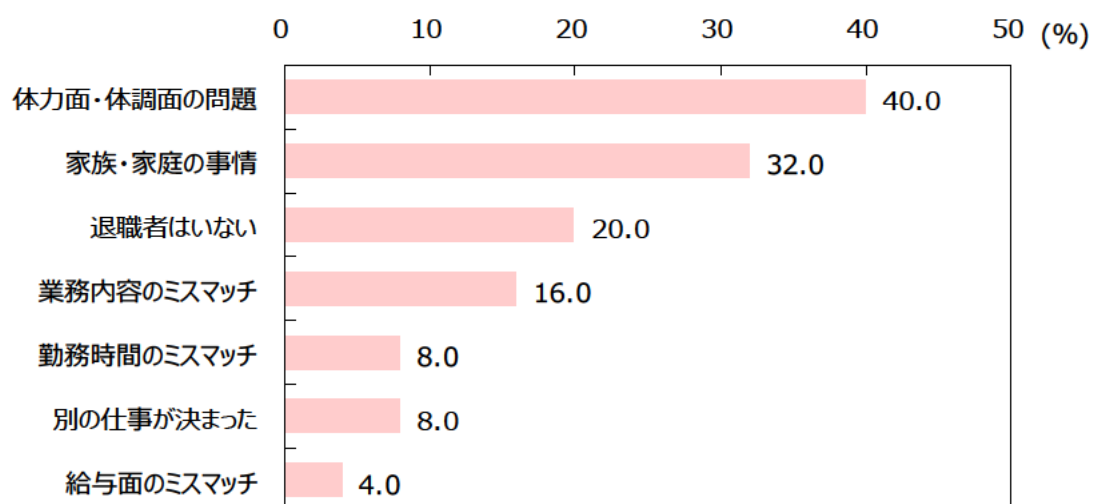
・介護職員のスキルアップが目指せる状況にならない原因(対象 9 施設)



・導入で負担が大きなこと



・介護助手の退職理由



【事例】

- 持病の腰痛があったが、よくなってきたので仕事をしたが、やっぱりダメだった方がいた。また、ダブルワークの希望者で、空き時間を利用したいとのことであったが、今している仕事が繁忙になり退職した。
- 採用を出したが、家族の反対で後日辞退した人がいた。
- 腰痛がひどくなり退職された人がいる。

・導入に向けての助言(アンケートより)

- 個人差があるため、指導方法の言及が必要である。事前説明会は早い時間に送迎があると集まりやすい。チラシだけの募集に頼るのではなく、自治会、老人会へも募集をかけた方が良い。昼食だけでなく、朝食や夕食の食事介助ができる介護助手がいると助かる。施設保守や清掃のできる男性介護助手も必要である。
- ユニット型施設は、各ユニットにより支援内容、業務内容、時間等に差があるため、時間帯で流れ作業として各ユニットを巡回就業は難しい。体力面でも長期的就業は、内容を限定しないと難しい。そのため、介護助手を多く雇用し、人件費の持ち出しが増える。従って、各ユニット内の限定的かつ、うまく組み合わせた作業が有効である。
- 現場の介護職員が忙しく、人手が足りない時に介護助手の方が自ら食事介助等をされた。看護リーダーがその現場を見て注意をしたら、気分を害されて辞めるといい騒ぎが大きくなったことがあります。業務の線引きを理解していただくことが大切です。
- 地域在住のシニアの方々に就労のチャンスが広がる。介護助手本人の趣味や特技を生かしたアクティビティ・サービスは、介護助手本人と入居者、双方に良い成果が得られる。
- 年齢や体力、各人の資質に適した業務内容、量、各ユニットへのマッチングを考えることが重要だと思います。

<参考> 導入した現場からの声(アンケート・事業実績報告書より)

介護助手の声

- 働きながら介護のことが学べ、介護の現場を知ることで自分自身の将来の在り方や社会とのかかわりを考える良い機会になった。
- 何をすべきか上司がマニュアルを作成して、手とり足とり親切に教えていただけたことが嬉しかった。
- 少ない日数、短時間でもいいのか、このような仕事内容で働かせてもらっているのかと感じた。
- 年齢的に直接介護は体力・技術的に難しいが、できる範囲の仕事で楽しくさせてもらえる。
- 若い職員の方が頑張っているのを見て、元気をもらった。
- 身体に負担なく、働かせてもらっている。元気で働ける間はずっと勤めていきたいと希望している。
- 介護士の大変さがわかり、一緒に働くことで少しでも楽になればと思っている。
- 時間を見つけてカラオケを楽しんでいただけるようにセッティングもできるようになり、利用者と共に楽しむこともできるようになった。
- ご利用者とのコミュニケーションを取ることは難しかったが、話かけると喜ばれることが感じられ、コミュニケーションの大切さを学ぶことができた。

職員の声

- 介護助手の方に、早朝からの業務を担当してもらえるようになり、夜勤明けの最もきつい残業時間帯に大変助かっている。その分申し送りや、利用者の状態変化に気づくことも増えてきた。
- 介護助手の方に居室のシーツ交換、居室・廊下の掃除など環境整備に力を入れていただいているので、いつも施設内がきれいになった。
- 利用者の見守り業務をしていただいておりますが、今ではなくてはならない役割になっています。
- 最初は、事故や利用者からの苦情など心配もあったが、現在ではとても助かっている。
- ドライヤーでの頭髮乾燥や浴室掃除など、人員を割かれることが少なくなり、利用者とかかわれる時間が多く持てるようになった。

成果(施設として)

- 休憩を確実にとれるようになった。ケアプラン実施等の時間が増えた。
- 時間外手当も前年度より減少している。
- 全体的に介護職員の業務軽減につながった。
- 介護職員に心身の両面において少し余裕ができたため、直接介助に多くかかわれるようになった。
- 利用者からの要望やナースコール対応などに待たせることなくすぐに対応できるようになった。
- 見守りの目が増え、ご利用者様のリスク軽減につながった。
- ご利用者様の待ち時間が短縮され、サービス向上につながった。
- 後の介護職員に対する聞き取りで、介護業務以外の仕事の軽減につながったとの声が多くあった。また、利用者(入所者)さんからは「年齢が近く、親近感があり、昔のことなどの会話が弾んだ」との声があった。

課題(施設として)

- 業務の手際や完成度に個人差があるため、職員側での指導方法に改善が必要。
- エアコンのフィルター掃除・車椅子の整備・庭の環境整備など営繕係のできる男性の介護助手さんを追加で採用したい。
- 利用者へのサービス向上につなげるという意識を持たせるのに苦労している。
- 山間農村地域のため、地域の高齢者は家事(農業等)を担っているため、募集してもなかなか人が集まらない。
- チラシだけの募集に頼るのではなく、自治会、老人会へも募集をかけた方が良かった。
- 施設側が支援を希望する時間帯(早朝、夕方)を希望する介護助手が少ない。
- 土日祝や遅い時間の応募があるとよいです。サポート業務+食事の介助のみでもよいので、できる方、資格のある方だと本当に助かります。
- 昼食だけでなく、朝食や夕食の食事介助ができる介護助手がいると助かる。
- 介護助手業務(勤務内容・勤務時間等)の内容の見直しをすることにより、職員・介護助手・ご利用者様への負担・リスク軽減につなげたい。
- 受入れ側の施設職員が「介護助手」の役割を理解し、全体で育てていくという体制・就労環境を作ることが重要。介護助手を雑用係のように扱う職員がいたりすると、離職につながってしまう。

三重県 介護助手導入実施マニュアル

2019年3月

発行者 三重県 医療保健部長寿介護課

〒514-8570 三重県津市広明町13番地

Tel 059-224-2262

委託先 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

政策研究事業本部研究開発部

Tel 052-307-1103

監修 三重県老人保健施設協会
